

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2990700052 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 祥水園 | | |
| 事業所名 | グループホーム 慈泉庵 | | |
| 所在地 | 奈良県五條市野原東6丁目2番48号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年11月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年12月21日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 奈良県国民健康保険団体連合会 | | |
| 所在地 | 奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年11月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の認知症進行予防のため、DT(ダイバーショナルセラピー)活動として計算問題や塗り絵、また花の栽培、セラピー犬の世話などに取り組んでいる。またホーム周辺は景色がきれいなので、散歩に出かけることで、歩行機能の低下を防ぎ、安心して生活していただけるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた高台に事業所があります。春先には梅や桜の花が咲き誇り、近隣の方々も花見に訪れます。事業所の畑では野菜が育てられ、みんなで旬の食材を調理して食卓に並べ、季節感を味わいながら楽しく食事をされています。2ヶ月毎に開催される運営推進会議は日曜日に実施し、家族の方も多数出席して忌憚のない意見や要望が出され、運営や地域の交流に活かしておられます。また、余暇活動の一環として①遊びリテーション(遊びとリハビリテーションを合わせた軽運動)、②DT活動(気晴らし療法)を実践し、利用者が尊厳を保持しながら日々心豊かな生活を送れるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝、朝礼時に、出勤職員全員で、法人理念を復唱し、意識づけを行っている。 | 法人理念を朝礼時に復唱し、職員全員に浸透させて日々のケアに繋げておられます。 | 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を、職員で話し合って作成されることを期待します。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 春から夏にかけては周辺を散歩し地域の方とあいさつを交わし交流を図ることができた。また秋祭りは10/28行われ見学し地域の方と触れ合うことができた。 | 周辺の散歩の際は近隣の方々と話をしたり、花見や地域の盆踊り、秋祭り等で地域の方と交流されています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 法人によるオープンホーム(就職説明、施設説明)において地域に方々に対して、グループホームの内容を説明、見学を実施できた。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 五條市介護福祉課、地域包括、自治会長、民生委員、ご家族の各皆様様に出席していただき、行事の内容や取り組みをわかりやすく写真で紹介し、意見を頂いたり、情報を共有している。 | 日曜日に開催されているため家族の参加も多く、活発な意見交換が行われ、出席者の意見・要望をサービスの向上に活かしておられます。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 入退居の届け出や情報、介護保険認定更新手続きや調査等、連絡を取っている。 | 市町村とは日頃から連絡を取り合い、協力関係の構築に努めておられます。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止に対する指針を毎月の会議で読み上げ周知している。 | 身体拘束については職員研修等で正しく理解され、玄関も夜間以外は開錠し、身体拘束をしないケアに取り組んでおられます。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人内部研修で尊厳についての研修会でご利用者の尊厳を守るため、職員お互いに態度や言葉遣いに注意をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 入居時にご本人やご家族が希望されている終末期の延命等について詳しく伺い支援に繋げている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書の内容や重要事項説明書を十分に説明し理解をしていただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | カンファレンス時や面会時に、グループホームに対する要望やご質問、意見を伺い、職員に周知している。 | ケアプラン作成時や家族の訪問の際に要望を聞いて、サービスの向上に活かしておられます。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月、全体会議を開催し、事業計画の進捗状況やご利用者の処遇について問題点等をみんなで検討し、改善につなげている。 | 毎月のユニット会議や全体会議だけでなく、日常的に職員間で情報交換を行い、意見や提案は運営に反映されています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々の実績を正しく評価しやりがいのある環境、魅力のある環境に取り組んでいる。また、知識向上のため資格取得を奨励している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内で毎月研修を行い参加を呼びかけ、また知識の向上を図るため、漢検、住環、秘書検、QCの資格取得を奨励している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 3か月に1度、各事業所持ち回りで会議を開催し、事例検討等サービス向上に向けての勉強会を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 環境に慣れるまで少しでも不安を和らげるためちょっとしたことでも、しっかりお話を聞くことで、不安を取り除き、安心につなげる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時に在宅での生活の様子を伺い、グループホームでの生活の内容を説明し問題点に対する取り組み等を説明し理解してもらう。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 環境の変化による不安や不穏に対して、ご家族と連絡体制を密にし情報交換を行い、対応を図っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人の機能を有効に活用し、お互いに協力し合って生活している喜びを感じいただき、自立に向けた生活の支援を行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族の面会時は日頃の生活の状態を報告することで安心してもらおう。また、ご家族との時間を大切にさせていただく。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族と一緒に定期的に美容室に行かれたり、以前、買い物に行かれていた商店へ買い物を計画し実施している。 | 馴染みのスーパーに行かれたり、自宅に短時間戻られる場合等、可能な範囲内で支援されています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | フロアをご利用者数人が分担してほうきで掃除をいただいている。また、食後テーブルを代わる代わる台布巾をリレーのように拭いていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居され、特養等、新しい施設などに行かれた時、情報の提供や面会の機会を持ち支援している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご利用者の思いや要望をお聞きしている。コミュニケーションがとりにくいご利用者に対しては生活の情報をご家族に伝え、生活しやすい環境を作っている。 | 日常の会話や入居の際の聞き取り、家族との面会時の情報も含めて、利用者の思いの把握に努めておられます。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面接時や、入居時の説明時に、ご本人、ご家族より生活の情報を得て、ユニット職員に周知している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日中フロアで過ごされる方や居室で過ごされる方など様々なので状態を把握しながら、ご本人が穏やかに生活出来るように支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 課題があれば、その都度カンファレンスを開き、問題点を把握し、職員全体でケアに取り組んでいる。又、面会等でご家族の意向もお聞きし、ケアに繋げている。月1回ユニット会議でモニタリングを行い必要に応じて各専門職と相談しケアに繋げている。 | 介護計画は半年ごとに見直しを行い、現状に即した計画を作成されています。また、家族の要望や状態変化があれば臨機応変に見直しされています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日中、夜間の記録チェック表に、身体の状態、食事、薬・点眼の服用、排泄等の個別記録をしている。また申し送り帳に状態変化等記録し、情報共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族が面会に来られてから、外出されたり、外泊されることになる場合もあり、必要物品を用意し送り出させていただく。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 隣接する軽費老人ホームのオープン喫茶に出かけ入居者と交流を図っている。また地域の美容室やスーパー、医療機関を利用している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医が個別の往診に来て下さり、定期検診による健康管理を行っている。主治医、看護師、ご家族、職員が連絡を取り合えることで緊急時の対応ができています。 | 希望される場合は家族の協力でかかりつけ医を受診されています。協力医療機関からは月2回の往診の他、緊急時には協力医の往診もあります。また、歯科医師の訪問や月2回歯科衛生士の支援もあります。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週3回は看護師が来庵しご利用者の健康管理を行い、異常があれば直ちに主治医に相談し、指示を頂いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は、かかりつけ医の紹介状より情報をお伝えし、面会による状態確認や、医療スタッフ、地域連携室と、密に情報交換を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居説明時、重度化された場合、特養を視野に入れながら、グループホームでもターミナルケアの取り組みを行っていることを説明し理解していただいている。 | 入居時に同意書をもらい、ターミナルケアについて家族と話し合いを持たれています。看取りを行った経験もあり、隣接する施設からは看護師の協力支援もあります。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人全体で感染症による嘔吐物処理の研修を行っている。又、消防署が実施している救命救急講習でAEDの研修を職員全員が受けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練(日中・夜間想定)を実施している。地域の方々にも見学に来ていただいている。避難訓練の報告は、運営推進会議でも行っている。 | 利用者も参加して消防署の立会いで夜間も想定した避難訓練が行われています。また、地域の方にも訓練参加の呼びかけをされています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 法人全体で尊厳と倫理についての研修を行っている。一人ひとりのご利用者に対し、丁寧な言葉遣いと態度で日々接している。 | 利用者の尊厳とプライバシーを損なわない丁寧な言葉づかいを心がけながら、温かみのある対応をされています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者一人ひとりの思いや要望、訴えを聞き、出来るだけ本人に決めて頂き、支援する。情報は申し送り帳、サイボーズ等で職員同士が共有している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 大体の時間は決まっているが、その日の状態、気分に応じて、本人のペースで過ごす頂く。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着る衣類は、ご利用者と一緒に選んでいる。月1回美容師が来て、カットをしている。カット日以外でもカット可能で、馴染みの美容師への支援も行っている。髪が長いご利用者は毎日髪をくくり、身だしなみをきちんとしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 畑で季節の野菜を作り、収穫した物を味噌汁の具や漬物に活用している。又、月1回季節のご飯をご利用者と職員と一緒に作って、昼食に食べている。 | 畑で収穫した旬の野菜を調理して食べる楽しみや、好みの食材を利用者と職員と一緒に買い出しに出かけるなど、食の関心を引き起こす取り組みをされています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士がバランスの良いメニューを考え、野原ダイニングが調理した食事を毎食提供している。基本普通食を提供しているが、その都度利用者の体調に合わせて、食事形態を変更して提供している。水分は嗜好に合わせて提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科衛生士は月2回訪問し、自歯、入れ歯、舌下の状態、噛み合わせ等を診て頂く。医師は月1回訪問し、歯の治療を行う。毎食後口腔ケアを職員が行い、磨き方、歯ブラシの種類は歯科衛生士より、指導を受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿取りパットの種類を増やし、一人ひとりに合う尿取りパットを使用している。リハビリパンツから布パンツに変更して、自立つに向けた支援も行っている。 | 日中は常に利用者に配慮しながらトイレ誘導をされ、各利用者の排泄パターンに応じた自立支援をされています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝にヨーグルトと冷たいポカ리를提供し、腸の働きを活性化して自然排便に繋げている。出来るだけ下剤を服用せず、自然成分が特徴のアロエを進めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 時間帯は決めているが、週2回は入浴して頂く。本人の希望や状態に応じて入浴は可能。入浴拒否の場合は、毎日声掛けをして、入浴を勧める。 | 入浴は週2回時間帯も決められていますが、本人の希望や状態に応じた支援をされています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その日の体調、気分に応じてベッドで休んで頂く。布団の種類、毛布、こたつ等の寝具を一人ひとり工夫して安眠に繋げている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方された薬は職員が朝食後、昼食後、夕食後、就寝時に仕分けし、薬効の説明書を確認している。投薬による状態の変化に気を付け、主治医、薬局と連携を図っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | フロアの掃除や食器を拭いていただいたり、洗濯物を干したり畳んだり、積極的に手伝っていただいている。趣味や希望を生かせるような支援(畑で野菜作り、花の水やり等)、楽しんでいただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 春から初夏にかけて庵周辺の散歩を日課としていました。また行きたい所や食べたい物等の希望を個々に聞き、外出支援を行っている。地域の祭りやイベント等にも参加している。 | 近隣周辺の散歩から、遠方への外出まで、一人ひとりの希望が出来るだけ叶えられるように支援されています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 原則として、ご本人から要望があれば、家族様と相談して自己管理が出来る場合は小銭のお金を持って頂き、支払いをして頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば、電話の支援をしている。手紙は書ける方は書いて頂き、代筆が必要ならば代筆させて頂く。ポストへの投函は、近くにポストが無い為職員が代わって投函させて頂く。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎日、玄関、フロア、居室、トイレ等の掃除をし清潔保持に努めている。夏場は午後の日差しが強いためよすずで優しく遮光している。手作りのカレンダーで生活感を感じてもらえるようにしている。 | 事業所内は和風で清潔感のある居心地の良い共用空間となっており、畳スペースもあります。また、採光、室温管理も適切に行われ、利用者はのんびりと過ごしておられます。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアーにはテレビの前にテーブルと椅子を設置している。テレビを見ながら会話されたり、また畳に座り、のんびりと過ごされるご利用者もおられる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人が使っておられた机や椅子など持ち込んでいただき少しでも以前の生活環境に近づくことで安心して生活していただけるように工夫をしている。 | 居室にはベッドとクローゼットが備え付けられ、馴染みの物が持ち込まれて、利用者が以前の生活と変わりなく過ごせるように配慮されています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの場所がわからない方に張り紙をしたり各居室には表札をつけたり目印をつけ自立した生活を送っていただけるように支援している。 | | |